



東京都鍍金工業組合と 高等職業訓練校に思う

全鍍連 顧問理事 荻宿 充久
(三共鍍金株式会社)

全鍍連顧問理事の荻宿です。日頃より全鍍連の組合員様には、お世話になっております。東京組合では顧問理事と高等職業訓練校の校長です。校長も14年目になります。まずは、東京都鍍金工業組合が設立された話からしましょう。昭和41年に東京都鍍金工業組合となりました。昭和44年に年金基金ができました。(現在は、特例解散を致しました)昭和46年に健康保険組合と公害防止協同組合ができ、同じく46年に東京都高等職業訓練校となりました。以前は、東京鍍金学校でしたので現在の訓練校は56期生となります。

当時は、東京都の鍍金組合員数1,200社、従業員数35,000人でしたが、現在は、241社(1/5)、従業員数3,360人(1/10)となっていました。当時はこれだけの組合員数だったので、80周年記念式典は、武道館を借り切り歌謡ショーを行いました。私も観に行きました。私は、昭和41年の組合が出来た年に現在の三共鍍金(株)に入社しましたので、組合も私も60年の還暦です。5月の東京組合の総代会では、めっき業界に多大なる貢献をされたと言う事で、今年度から始まりました第一回の理事長表彰を頂きました。理事23年、特に訓練校の校長を14年もやっているのが大きな要因かも知れません。表彰に感謝致します。

さて、全国的にも鍍金組合数は減少の一途です。現在は、全国で1,107社までに減少しており、昭和41年の東京組合の組合員数よりも減少してしまっております。良い技術を持ちながらも後継者不足だったり、公害規制が厳しくなったりと中々難しい問題ばかりです。私事ですが、先代の子供でもなく親類でもありません。現場からのたたきあげです。「羽布」やり「サンドブラスト」やり「アルマイト」やり「各種めっき」をやり「塩ビでタンク作り」やりと、ありとあらゆる事をやって来ました。現在でもこうい

う後継者づくりをすれば会社(鍍金業)としても存続できるのではないのではと思います。特にめっきは、希少金属の薄膜技術で決して無くなる事のない産業だと確信をしております。我社では、鍍金業を若い子に理解してもらい、こういう職業もあるのだと近隣の小中学生に工場見学をしてもらっています。この子供達が成長して、多少なりとも鍍金業界に入って頂けたらと思います。

さて、東京組合の組合員減少で訓練校の生徒さんが集まりませんので、生徒募集に苦労しております。制約がありまして、東京都の職業訓練校なので半数の生徒が東京組合の人でなければ助成金がカットされるなどの制限でした。しかしながら労働保険は、「東京都でも埼玉県・神奈川県も同じですよ」と言う訳で厚生労働省にお伺いしお願いをして、東京都の方から予算を厚生労働省に上げて頂き予算が通り生徒さんも全国的にOKになり、訓練校としては安堵しております。お陰様で最近では、全国から生徒さんが入校しております。通学も遠いところは、富山県、長野県、福島県、静岡県と各方面から訓練校に通って来てくれています。本当にありがたく感謝です。感謝の気持ちから個人的寄付で、今年度の卒業生から皆勤で成績優秀、困難を克服して一年間終了した生徒さんに「荻宿賞」を設けさせて頂く事に致しました。

私も今年喜寿になりますが、体が元気なうちは組合に、もう少し恩返しをと思っておりますので引き続き、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

最後になります。

荻宿語録 めっきとの出会いに感謝
 めっきと言う職業に感謝
 めっきを天職と思う
 めっき人生そのものが歴史